

曹洞俳壇

選・村松五灰子

浴衣着て少しくだけし母偲ぶ

愛知県 伊藤 律子

評 どちらかと言えばふだん厳格な母が浴衣にくつろぐ、いつもと違う母、それが嬉しかった記憶。遠い思い出の母はいつも切ない。

道草を食って蚊帳吊草の中

長崎県 麻生 勝行

評 「蚊帳吊草の中」の表現が楽しい。その草を丁寧に裂いて小さな蚊帳を作ることに夢中なのだ。

◆ 弁天のやうな妻なり百合の花 愛媛県 井上 征郎

◆ 機銃掃射に伏せし日よ麦の秋 千葉県 鈴木 英子

◆ 早苗田の根付き見届け母逝きぬ 長野県 下島 博

◆ 励みけり梅雨の晴間のポランティア 神奈川県 星野 博

◆ 螢と同じ水飲み谷戸ぐらし 静岡県 小泉八千代

◆ 河鹿声とどく密閉ち旅枕 埼玉県 日尾野安子

◆ 水輪の先鋒たりしが長考す 東京都 伊奈 三郎

◆ 赤紙に行きしままなり敗戦忌 岩手県 上沖 貞子

◆ 足るを知る隠元豆を片手ほど 愛知県 松井 暁見

◆ 住み古りてここが一番時鳥^{はれとき} 大分県 武石富美子

*選者吟

良き兆し木の実が肩を打てるのは

五灰子

*作句小見

「笹の小揺れに宇宙を見よ」私の師伊藤柏翠の言葉です。やつとこの頃少し判るような、判らないような。



大本山永平寺



達磨忌だるまき

山の斜面を開いて築かれた永平寺の七堂伽藍しちどうがらん。一〇〇段以上ある階段を登りきった一番高い所にあるお堂が法堂ほつどうです。そこから眺める景色は、ぐるりと山に囲まれており、永平寺が深山幽谷の地にあることがよくわかります。境内の木々は少しづつ紅に色づきはじめ、朝夕と少し肌寒く、秋を感じさせる時節となりました。十月五日は、赤色の衣を纏まとう坐禅すがたの「だるまさん」で親しまれている達磨大師のご命日です。お釈迦さまの正しいみ教えを受け継がれた、お祖師さまの二十八代目になり、インドから中国へと初めて仏法を伝えてくださったのも達磨大師です。その正しい仏法が、道元禅師さまのお師匠さまである天童如浄禅師てんどうじゆじやうさまへと伝わり、道元禅師さまがお継ぎになり、第五十一代となりました。そして、達磨大師が中国へと仏法を伝えたように、中国から日本へと正しく伝えてくださいました。

永平寺の名は、達磨大師が中国へ仏法を伝えた年の年号が「永平」であったことに由来します。

達磨忌は、達磨大師が中国へと渡り仏法を伝えてくださり、私たちがお釈迦さまのみ教えを頂けることへの報恩感謝のご供養法要なのです。

ご本山だより



大本山總持寺



御両尊ごりょうそんの御征忌会ごしようきえ

曹洞宗の大本山である福井県の永平寺と神奈川県の總持寺では、開山忌法要のことを「御征忌会」と申します。

特に總持寺では、御開山さまの瑩山禪師さまと二祖さまの峨山禪師さまお二方を合わせて「御両尊」と称し、「御両尊の御征忌会」を奉修しております。

御征忌会は、毎年十月十二日から十五日にかけて厳修され、全国から選ばれた焼香師さまが禪師さまの御代理として法要の導師を勤められます。同時に随喜ずいき（お手伝い）のご寺院・檀信徒の皆さまの方々も大勢参集して、報恩の誠が捧げられます。

總持寺では十月上旬から冬安居制中に入り、これから正月明けまでの一〇〇日間、首座和尚を中心に集中修行が続けられます。

さて、来月十一月二日から三日に、一泊で「本山檀信徒の集い」が開催されます。總持寺は曹洞宗の大本山であると同時に、多くの檀信徒を擁する寺院でもあります。坐禅や聞法もんぽう、写経の他、今年は落語家の桂歌丸師匠を迎え、円熟した話芸を堪能いたします。翌三日は、広大な境内を開放して「つるみ夢ひろばイン總持寺」が開催されます。地元鶴見の文化歴史に親しみ、東日本大震災の被災地と絆を結ぶことをテーマに開かれます。読者の皆さまにもご来場くださいますようご案内申し上げます。

大本山總持寺／045-581-6021